

# 造

# 形

## JOURNAL

特集

学習指導要領移行期にはじめる10のこと ..... 03

小林貴史/小橋暁子/椎橋げんき/飯澤公夫/江口和良/  
塩川 岳/川本桃子/田中 伸/大塚智大/佐藤 匠/嶽里永子

表紙の1枚 クロード・モネ「ジヴェルニーの積みわら、夕日」〔本田信郎〕 ..... 02

授業の役に立つ! ICT 活用法 アプリで見よう、つくろう〔北川智久〕 ..... 14

ちかごろ気になる..... 15

・新参者〔小田淳也〕

・問題解決を楽しむ〔原 祐輔〕

美術館探訪 岡山県立美術館 ..... 16

教材研究〔小学校〕 アイデアコミコミ S! モビール〔武田 渉〕 ..... 20

教材研究〔中学校〕 弘明寺商店街アートプロジェクト〔飯田哲昭〕 ..... 22

VOL. 62-2

2018 No.432

開隆堂

# モネが描いたもの、残したもの

宇都宮大学教育学部 准教授 ほんだごろう 本田悟郎

クロード・モネ (Claude Monet) が、パリから北西に約60km離れたジヴェルニーへ移り住んだのは1883年のこと。1880年代、印象派の画家たちが徐々にグループから離れつつある中で、モネは印象主義の当初の理念をこの地で追い求めた。42歳から86歳で没するまで、田園の広がるこの地で制作を続け、同じ題材を異なる光の条件で幾度も描き、連作として《積みわら》や《睡蓮》が生み出されたのである。

夕日が空と大地を染め、遠くの家々までも靡げにし、すべてが光に包み込まれる。高く積み上げられた脱穀前の麦も、光と色彩が溶け合う大気の中に浮かび上がる。本作には、重ねられた筆触と柔らかく明るい色彩が際立っている。パレットでの絵の具の混色を避け、原色やそれに近い色をカンヴァスに配置する印象派の特徴的な描法を明確に見ることができる作品である。

モネが描いたのは、《積みわら》ではなく、光そのものであった。風景の写実的な再現描写から離れ、光と色彩による空気感をカンヴァスに留めたのだ。それは、パリの都市生活者を支える豊饒な大地の視覚化であったのかもしれない。

同年、同じ視点から時間帯の異なる光を描いた作品を他に2点描いている。さらに、2年後には、《積

みわら》の連作25点が制作されたことを考えると、本作はそのきっかけとなる重要な作品と言えよう。

印象派の画家たちが、後世に与えた影響は多大なものであった。近代から現代へとつながる美術変遷の源流として、印象派の絵画はそれまでの美術概念を大きく変容させた。モネの絵画においても、特にこの《積みわら》はそういった影響力を大いに発揮するものであった。印象派に続く世代の画家たち、ドランやブラマンクらフォーヴィスムの画家たちが《積みわら》のモチーフを描いたように、あるいは、抽象絵画の先駆者カンディンスキーが1895年にモスクワで目にした《積みわら》から、モチーフの再現性よりも光と色彩の構成を重視した画面に衝撃を受けたように、モネの影響力はその後の20世紀美術へも及んだ。ポップアートにおいては、リキテンスタインがアメリカン・コミックからの引用と同じように、美術史からモネの《積みわら》を引用している。モネが筆触分割により光の感触を画面に残したのに対し、リキテンスタインは、それを印刷のドットに変換したのである。

本作品は、国内の美術館で見ることができる。今を生きる私たち、子どもたちにも、その影響、その光が届くであろう。



ジヴェルニーの積みわら、夕日 (油彩、カンヴァス、65.0×92.0cm) 1888-89年

クロード・モネ (1840-1926) 埼玉県立近代美術館蔵

# 学習指導要領移行期にはじめる10のこと

昨年3月に小学校、中学校の新たな学習指導要領が告示され、早くも1年が過ぎようとしています。この29年度における周知・徹底を経て、いよいよ来年度より2年間(中学校では3年間)の現行学習指導要領からの移行期間に入ります。

今回の改訂では、各教科共通の三つの柱として「育成を目指す資質・能力」が示されました。また、学びの質を高めるための授業改善へ向けての「主体的・対話的で深い学び」や、教育課程の編成、実施とともにその評価、改善のための「カリキュラム・マネジメント」が改訂のポイントとして大きく取り上げられています。つまり、各教科においてどのような資質・能力を培うのかということを明確にしようとしているのです。

これらのことについては、すでに文部科学省のみならず、さまざまな研修会や書籍を通して、学校教育現場の先生方にもその理解が図られているところです。

そして、その主旨をもとに具体的に何から手をつけていこうかと模索している方も多いことと思います。

私たちにとって新しい学習指導要領は、日々の授業を規定する枠組みとしてあるだけではなく、今まで積み重ねられてきた実践を支え、より豊かな授業を実現していくための根拠となることが大切だと考えます。

そのためにもこの2年間の移行期間において、どのように授業に取り組んでいくかということが、たいへん重要になってくると言えます。

今回の特集「学習指導要領移行期にはじめる10のこと」では、さまざまな立場の10名の方々からこの移行期間において、「自分が大切にしたいこと」、「大切にしてほしいこと」をあげていただきました。ここで紹介されているそれぞれの取り組みから、改訂の主旨が具現化されたエッセンスを見出し、自らの授業に反映していただけることを期待しています。

そして、完全実施においては、図画工作科の学びの意味や価値を裏付けるものとして、学習指導要領が生きて働くことをめざしたいものです。



東京造形大学 教授  
小林 貴史 (こばやし たかし)



# 授業を「デザイン」するという視点

## これまでの教育、これからの教育

今回の改訂では、平成元年から現在までの教育の流れを踏襲しつつ、資質・能力を軸に校種間、全教科をつなげて整理された。また、

知識を蓄えることから、さらに知識の活用やつながりを見出し、自ら考えていくことへシフトしている。正答が一つだけとはいえない、あるいは正答のない社会で生きるための教育ということをはっきりと打ち出したといえるだろう。

全校種、全教科において資質能力に基盤をおき、子どもたち自身が自分の考えや価値をつくり出していきけるような教育が求められている。また、教科ごとに「見方・考え方」という言葉が示されたが、教科の特質を明らかにし、授業目標

と内容のつながりを意識する必要もある。そのような中で、図画工作・美術では授業として具体化するために、どのようなことができらるだろうか。授業をデザインするという視点から考えていきたい。

## 「造形遊び」から授業のデザインを考える

「造形遊び」は1977年に「造形的な遊び」として図画工作において登場した。「造形遊び」は造形的な要素やそれに伴う試行錯誤、関わりなどを意識した授業の中で、児童が主体的に考え動き、意味や価値をつくり出していくことを目指したものである。授業において教師は材料や環境を設定し、「○○で何しよう?」と児童に考えを促す問いかけから始まることが多い。そして、児童自身はモノや

人、場と関わりながら何をするか、どのような形式や技法、知識などを用いるかを、決めたり試したりしながら表していく。

「造形遊び」は、絵や立体のような一表現形式ではなく、授業の一形態、つまり授業デザインの一つのあり方なのである。造形教育では「造形遊び」を通して、児童自身が主体的に関わり学んでいくための授業デザインがすでに示されていたといえる。

このような児童・生徒が主体的に学ぶ活動は、「造形遊び」でしかできないことではなく、絵や立体、工作、鑑賞など、全ての活動における授業デザインにつながる考え方もいえる。

## 創造的な授業づくりに向けて

すでに造形教育では、主体的で

深い学びを目指した授業デザインが40年前から現在まで「造形遊び」として示されている。それは造形教育の強みである。しかし、「造形遊び」だけではなく、さまざまな造形活動において、「授業をデザイン」することを意識していくことが重要な点となる。

そのためには、例えば同じ材料を用いる活動でも目標によって指導計画や方法がどのように変わるのか、授業者が目標に合わせて内容や方法を分析し、それらをつないで整理していく視点をもつことが、この移行期の要となるのではないだろうか。



千葉大学 准教授  
小橋 暁子  
(こはしさとこ)

# 保育現場から伝えたいこと

## はじめに

平成29年度に幼児教育・保育の3法令<sup>\*1</sup>で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。

これは本来、「スタートトカリキュラム」につなげなくてはならない子どもの姿であり、小学校の先生に知ってほしい姿でもあります。

## 何でもできる年長児と

## お世話をされる1年生

卒園間近の園児たちの姿は実に頼もしい。身の回りのあらゆることに對して自分たちの力で、時には大人の知恵も借りながら挑戦する意欲を感じます。

しかし、年度が明けてその子たちに会うと、あの背筋の伸びた頼もしさは影を潜めて、急に猫背になったような印象を受けることが

少なくありません。

卒園児には今まで自分たちでやってきたことやできることがたくさんあります。一方で、それらの自信は、小学校に上がったと同時に小学校の最下級生が行う稚拙なこと、未熟なこととして扱われてしまいます。学校側は今までの学びを全てリセットして考えるのではなく、入学時の子どもがそれぞれ完了している生活面の育ちを理解し、尊重することが重要ではないでしょうか。子どもたちは今まで育んできた経験を認められることで、学校教育や学校生活の独特な仕組み、そして学びに對して主体的に取り組むだろうと考えます。

## 学びのプロセス

例えば、生活面は学びと関係の

ない話のように聞こえるかもしれませんが。しかし、保育現場の子どもたちは教科にとらわれないあそびなどを通して、生活の中でいろいろなことを感じ、考え、試し、表現し、気づき、その経験を生かそうと能動的にこれらの行為を繰り返して試行します。この繰り返しがいくつものふりかえりとなり、柔軟な思考が育まれ、学びに向かうプロセスになるのです。

## 子どものこぼれ

保育現場は情動的な感覚による自己決定や言語力の未発達などから、「言語に頼らない（非言語）表現」が主となります。言葉への興味・関心が深まる頃には「気持ちの言語表現」も楽しむ様子が見受けられます。しかし、その時期の子どもには小学校高学年のように実

際の気持ちや経験を言語として表現できません。つまり、言語力が未発達な低学年は経験を言語としてではなく、非言語で表現し、その行為を繰り返すことでふりかえり、学びへとつなげていくのです。

図画工作は教科教育の中で情動的な感覚による自己決定や非言語での学びを可能とします。小学校の先生方には図画工作で非言語による子どものことばも大切に読み取り、学びにつなげていただくことを切に願っております。

<sup>\*1</sup> 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領



百合女子大学 講師  
アーティスト  
椎橋 げんき  
(しいはしげんき)

# 造形遊びを 図画工作の中心に据えて

OECDの学力調査PIISAによると、今や全ての分野において日本の子どもの学力は世界のトップクラスである。これは、このことを支える日本の教員が世界トップクラスであることの証明でもあるだろう。

しかし一方で、内閣府が行っている調査では、日本の子どもはアメリカ、中国、韓国の子どもたちと比べて自己肯定感や自尊心が低いという結果が出ている。さらに、OECD国際教員指導環境調査(TALIS)では、日本の教員は指導に対する自信というものが他の国に比べて低いという結果もある。子どもも教員も学力は世界トップクラスであるにもかかわらず、共に自己肯定感が低いと示されている。これは学習がまだ生

活(社会)とかい離していることが原因なのではないかと私は考えている。何のための学習なのか、子どもにも教員にもストンと落ちていないからなのだろうと思う。目の前の混沌とした社会をどう生きていくのかという具体的な将来の夢が描けない中で、今の学びが自分の人生の中でどのように役立つのか。そこをもっと見せていく必要がある。図画工作でも、課題が子どもの生活にどうつながるのか、教師の思いが先行していないかを再考する必要がある。

このような中で私は、これからの図画工作は基本的には造形遊びを中心に据えて展開していく必要があると考える。造形遊びは、学習指導要領の昭和52年〜53年改訂時に低学年に導入され、その後、

平成元年度の改訂で中学年に、平成11年度の改訂で高学年にまで広がった。当初、「材料をもとにした造形遊び」と言われ、子どもたちが材料とイかに主体的に関わるかを大切にしてきた。そこには教師主導の造形活動は存在しない。子ども自らが材料から発想を広げ、表現方法を選択し、時間と空間の中で思う存分、造形に浸る環境を用意するものである。子どもが自ら価値を見いだしていく活動と言い換えてもよいかもしれない。今や造形遊びは、図画工作科の中心的内容で、中心的理念と考えるてもよいだろう。

次期学習指導要領の「造形的な見方・考え方」の解説の一文に、造形活動は「自分自身をもつくりだしていることである」とある。何か

をつくりだしていくということ、は、自分で意味を新たに作り続けていくことである。これは、造形遊びの理念と一致するものである。図画工作科の授業構成を造形遊びの理念に限りなく近づけて、何(主題・テーマ)を、何(材料)で、どのように(表現形式・様式)表現するかを、子ども自らが選択し、発見し、決定し、追求していくことができる授業を展開していくかなければならない。今一度、造形遊びを通して造形の原点に立ち返り、図画工作によって生きて働く力を育てていくことを願っている。



東京都図画研究会 会長  
東京都八王子市立陶鑪小学校 校長  
飯澤 公夫  
(いざわ きみお)

# 「関連」や「連携」を視点とした図画工作科の カリキュラム・マネジメント

本特集の巻頭言にもある通り、「新しい学習指導要領は、(中略)今まで積み重ねられてきた実践を支え、より豊かな授業を実現していくための根拠となることが大切」である。そこで、筆者が度々耳にする「関連」や「連携」を視点に、この学習指導要領移行期に各学校の図画工作科教育課程を検証及び改善することを提案したい。

## 「A表現」及び

## 「B鑑賞」の関連

この内容は今回の学習指導要領解説「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」の1に配慮事項として示されている。「表現と鑑賞は本来一体であり、相互に関連して働き合うことで児童の資質・能力を育成することができる。このことから「A表現」と「B鑑賞」の指

導については関連させて行うことを原則とする」とある。前回の学習指導要領では、同様の内容は「B鑑賞」の指導に関する事項として示されていたことから、この内容が今後の図画工作科の授業改善の重要なポイントになると考えている。

確かに、授業の終盤で子どもがまだ意欲的にかいたりつくったりしているにも関わらず、指導者が表現活動を中断させて、形式的に友達の作品を見る時間を設定していることがよくある。また、表現の題材においては、毎度のように作品鑑賞会が設定されていることも多い。しかし、それが鑑賞の能力育成につながっているのか疑問に感じることがある。

一方、ある6年生の立体に表す実践では、題材の冒頭で、扱うテー

マについて、作家作品の鑑賞活動を通して考える時間が設定されていた。それによって子どもたちは自然に、また意欲的に自分が表したいこと(主題)を思いつくなど、発想の能力を十分に働かせていた。その後はどの子も題材を通して表現への意欲が途切れることなく、充実感をもって作品を完成させていた。

子どもたちは常に、発想や構想の能力や創造的な技能など、「A表現」の活動で育成する資質・能力と鑑賞の能力を関連させて働かせている。指導者がこの視点に立つことは、今ある題材をより豊かな創造的な造形活動へと進化させることにつながるのではないかと考

## おわりに

「タブレットなどICT機器と鑑賞活動との関連」、「社会科の環境学習の一環として未来のまちをつくるなど他教科等との関連」、「地域の美術館と連携して進める題材開発」など、「関連」や「連携」の視点はさまざまに考えられる。各学校において、目の前の子どもの実態をもとに、その子が身についていく力や、そのための効果的な指導について語り合うなど、指導者相互の連携が今後一層進むことを期待している。



神奈川県横浜市立  
美しが丘西小学校 校長  
江口 和良  
(えくちかずよし)

# 学校と社会をつなぐ・またぐ

## 子どもの好奇心に ボーダーはない

学校における教科のカテゴリーは、教えやすさ、学びやすさのしくみでもある。しかし、実際の

社会では、そう簡単に割り切れるものではなく、多様な事象、要因、価値観が複合的に織り交ざっている。教科別の学びが、直接的に社会で役に立つとは限らないのだ。その点において図画工作や美術の教科は、さまざまなジャンル（教科）をつなぎ、地域や社会の中における課題解決のためのハブとしての機能させることができる分野だといえる。生活の中に当たり前にあるデザインはもとより、今日では、まちづくりや地域活性のためのアートを活用した事例も多くみら

れる。地域のコミュニティの再生、経済に関わることなど、さまざまな要素を内包している。子どもの好奇心にボーダーはない。教科横断的な授業にはとても適している教科なのだ。

## アウトリーチをもっと

私は美術家として2000年代初頭より、小学校や幼稚園を中心とした教育現場への体験型アウトプログラムのアウトリーチ活動を行っている。学校のカリキュラムではなかなか実施できない大規模な空間づくりや、学年を横断するコミュニケーションを軸とした協働プログラムなどである。教育現場では消化しきれない課題を、実社会で活躍するアーティストやデザイナー、学芸員やコーディネーターなどの外部人材の登用に

「ダイダラボッチのあしあと」 栃木県鹿沼市立永野小学校、2013  
鹿沼地方に言い伝えがある大男「ダイダラボッチ」の足をモチーフに、全校児童全員でエアドームを協働制作する。



よって、より深めることができるはずである。学校教育としてどのように落としこむかは、まさに現場の教員のさじ加減である。

## つなぐためのしくみづくり

教育現場と外部人材の連携をはかるための情報整理や、適した人材をスムーズにつなぐための、使いやすいしくみづくりも必要になるのではないか。幼・小・中・高・大が自由に活用できるデータベースの整備やネットワークづくり、情報公開をするための手段の整備など、公的機関や民間ができるしくみづくりもあるだろう。また、美術大学や芸術大学などの教育・



研究機関が果たせる役割も大きいはずだ。教育は学校だけが担うものではない。立場や世代を越えて、社会に開かれた学校、アートが果たせる可能性、そして新たな時代・未知の世界をたくましく生きるための柔軟さや想像力を、まず、われわれ自身が示さなければならぬのではないだろうか。



美術家  
塩川 岳  
(しおかわたけし)



# 特徴ある地域の美術館と学校の連携について

## 当館の教育・普及活動の変遷

当館では企業の中的美術館として地域の文化芸術向上・復興に貢献し、子どもたちに文化芸術体験の機会を提供している。また、地域の学校との連携により学校の要望に応じて美術館教育を充実させることを目的として、平成8年から教育・普及活動が始まり22年目を迎える。

## 学校教育との連携について

現在、美術館と学校教育との連



「GO!GO!美術館」

携が再注目されている。平成20年

に改訂された小学校図画工作科学

習指導要領に示された「児童や学校

の実態に応じて地域の美術館など

を利用したり、連携を図ったりす

ること。」という指針を受け、今回

の新学習指導要領においても、小

学校と美術館が双方の立場から協

力し合う「連携」に加えて「思考力、

判断力、表現力等」の育成をめざす

新たな方向性が示されている。美

術館を訪れる児童が受け身的に見

たり聞いたりするのではなく、学

校における造形教育で培った見方・

考え方を総動員して能動的に鑑賞

へ臨む姿が求められている。

そうした中で当館では以下のよ

うなプログラムを開催している。

## 《GO!GO!美術館》

当館の特徴である平面(絵画)と

立体(椅子、車、彫刻)など多種多

様にわたる所蔵作品を、クイズ形

式の活動と学芸員によるギャラ

リートークで構成しながら鑑賞す

るとい内容である。作品のもつ

魅力や特徴を学芸員と共に見つけ

ながら、自らが「感じたこと」を自

由に発言できるプログラムであ

る。子どもたちの感性や想像力を

育み、一人一人の可能性を引き出

すことを目的としている。

## 《木切れで工作》

家具店の中にある当館だからこそ

行うことができる製作プログラムで

ある。

通常処分してしまう廃材を家具

店から集めて使用する。廃材を世界

にひとつしかない宝物につくり変え

るといこの体験は、物を大切にす

る心を身につけると共に、環境教育

へも発展できる活動である。

## 《インテリあーと》

自分が製作した平面・立体作品

を、実際に販売している家具の

ディスプレイの一部として展示す

るとい、まさに表現と鑑賞が一

体化したプログラムである。新学

習指導要領に追加された「校外に

児童の作品を展示する機会を設け

る」活動の一例である。

私たちが学芸員は先生方との事前

の打ち合わせを通じて、子どもた

ちの実態や学習のねらいを理解し

た上で、美術館の特性や専門性を

生かした具体的な連携の方法を考

えていく姿勢が求められている。



村内美術館 学芸員  
川本 桃子  
(かわもと ももこ)

# 社会に開かれた教育課程の実現に向けて 図画工作科でできる第一歩

今回の学習指導要領改訂では、改訂の基本的な考え方の一つとして『子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。』があげられた。

これまでに行ってきた実践を「社会に開かれた教育課程」という視点で捉え直すことで、子どもたちの造形活動に向かう意欲を中心とした学びに向かう力が、よりよく育まれることを目指したい。そのために行けることを2点あげてみる。

一つ目は学校公開の効果的な利用である。授業参観や運動会などの学校公開の場は、学校での取り組みを発信できる有効な場であることはいうまでもない。そこでの展示は作品だけではなく、作品と

合わせて学習の目標も提示したい。子どもの思いや意図に寄りそった鑑賞をいろいろな人に広げていくことで、子どもの新たな意欲につなげることができると考える。

さらには、作品に向かう子どもたちの姿も大事である。私は個人懇談の際に、タブレットPCで子どもたちの造形活動に向かう姿を写真や動画で見せて伝えるようにしている。卒業製作の過程をスライドショーにして、作品展示の際に流したこともある。

また、四條畷市の作品展では、本年度から作品を見た感想を作者の子どもに直接伝えられるメッセージボックスを設置した。作者と見た人をつなぐことで、自分の学習した成果が誰かの心を動か

しているという実感を子どもにもたせることができると考えたからだ。いろいろな場での見せ方を工夫していくことが、私たち教師に求められているのではないだろうか。

二つ目は社会とつながるカリキュラムマネジメントである。例えば2年生の生活科で商店街に出かけるとする。そこでインタビューに答えていただいたお店の方に、お礼としてお店の絵を描く。その絵をもってお礼に行くことで一歩進んだ社会とのつながりがあるのではないかと考えるが、どうだろうか。

また、四條畷市では4年生でリサイクルポスターのコンクールを行っている。その導入では、なぜポスターが存在するのかという、

ポスターの役割や意義についても子どもたちと考えた。形や色で、見ている人の心を動かすことができるということを理解した子どもに、コンクールへの挑戦をすすめるのだ。それは展覧会に足を運び、受賞者の作品を鑑賞することでポスターの役割について深く考えることにつながるだろう。限られた時間数の中で、これまでの学びの蓄積を見直し、よりよく改善していくことが大切だ。

「社会に開かれた教育課程」の実現が、子どもたちの力になると信じて、今後も研鑽を重ねていきたい。



大阪府四條畷市立  
くすのき小学校  
首席教諭  
田中 伸  
(たなかしん)

# 試行錯誤を生む題材づくり

図画工作の表現活動で大切なことは、自分の思いをもって、試行錯誤しながら表現活動に取り組むことである。そのために、題材の展開の中に試行錯誤する仕掛けをつくっている。具体的には、材料や描画材料を限定する題材と多様な材料や描画材料を自分で自由に選択する題材を意図的に組み合わせ、年間の学習計画を組み合わせようとしている。

材料や描画材料を限定した題材では、その時間に扱う材料や描画材料の特徴やよさを感じられるように、十分に扱われる時間や場の設定を工夫している。あえて限定することで、それぞれの特徴やよさを自ら見つけ出すことができるのである。これにより、生きて働く力が身につくとともに、自ら表し方を工夫しようとする力を伸ばすことにつながる。

例えば、青一色の絵の具だけを使って、3〜4人で大きな画用紙に絵をかく題材では、水の加減や筆の太さを工夫するなど、友達と知恵を出し合い、試行錯誤しながらかいていく。活動を通して、水の加減による濃淡や線の太さによる感じ方の違いを見つけていた。一方で、多様な材料や描画材料

を自分で自由に選択して表現する題材では、自分の思いを表すために、今まで経験した材料や描画材料の特徴やよさを考えながら選択し、取り入れて表現していく。この場合、今までの経験をいかに引き出せるかがポイントとなってくる。図工室の中には、それまでに経験したさまざまな材料や描画材料が提示されており、自由に使えるようになっていく。それに加えて、参考作品もさまざまな材料や描画材料を活用した作品を提示するようにしている。子どもたちはそれらを参考に、試しながら表現に取り入れていく。その中で、また新しい取り入れ方を見つけることも多くある。

その一例として、落ち葉を表現する題材を行った。落ち葉を観察

して、そっくりに似せてつくるという内容である。実際の落ち葉に近づけるために、今までの経験を引き出し、何をどう使って表現しようか試行錯誤する。クレヨンを使ってバチックを取り入れたり、鳥の子紙を丸めたり水で濡らしたりして、質感を変化させていた。

すべては「表したい」という子どもたちの思いの上に成り立っている。そして、どちらの活動も子ども同士の間わり合いによって、表現が発展している。題材との出会いや間わり合いを大切にしながら、互いに刺激し合い、高め合う関係も大切にしたい。





宇都宮大学教育学部  
附属小学校 教諭  
大塚 智大  
(おつかともひろ)

# 三つの柱を持ち歩く

教育課程全体を通して育成を目

指す資質・能力が「三つの柱」とい

う形に整理されました。ちなみに

三つの柱は各教科で同じもので

す。わかりやすいですね。同じと

言っても各教科で具体的な中身や

扱いは違います。それはそれぞれ

の見方・考え方を働かせるからで

す。図工の目標にも「三つの柱」が

ドーンと立っています。図工にお

ける「三つの柱」は、「相互に関連

し合い、一体となって働く性質が

ある。」となっています。つまり、

順番に並んで立っていたり、大き

さが違ったりするものではないよ

うです。では、少しイメージを膨

らませてみましょう。

①三本を互にくつつける

くつつけただけでは一体感も関

連性も薄いですね。

うな形

ピザの耳側はうまく合わせられ

ないですね。

③流行のムニユツと触感の柱

一体化しますが、「生きる力」の

重さでつぶれてしまいそう。

④「ジャックと豆の木」の豆の木み

たいにスパイラル！

かなりいい感じですが。でも最後

に切り倒されちゃう…。

⑤磁石の柱

ぐうつと引き合ってピタッ。あれ？

でも横に並んじやいました。

⑥ねんどの柱

すごいいい！ 可塑性があつて、

一体になるし、どしつと強さも

ある。でも柱じゃなくなるかも。

⑦いっそ五つの柱

四つが三つになったのなら、

いっそ五つの柱に！ なんか強  
そう。でも柱はやっぱり三つな  
んですよね。

⑧知識及び技能のイエローピラー

ジャー、思考力・判断力・表現力

トゥッ！ ブルーピラージャー、

学びに向かう力・人間性トゥッ！

レッドピラージャー

三人合わせて生きるカレン

ジャー！ コンビ技で他の色を

召喚できる！ でもレッドが

リーダーになっちゃいますね…。

結論は出ていませんが、なぜこ

んなことを考えるのかというと、

授業中に「三つの柱」を持ち歩きた

いからです。

今までは頭の中に、現行学習指導

要領の4観点をスूपのような形

でいつも浮かべていました。関心・

意欲・態度がスूपのベースで、あ

との三つは具材やスパイスです。め  
あては題材ごとにかわるスूपの  
種類、という形です。それがよいか

どうかは別として、持ち歩くイメー

ジとしては軽く、授業のリズムを邪

魔しないし、ねらいからずれそうに

なった時に気づくきっかけにもな

り、児童の問いや気づきに方向性を

もって声かけができます。

さて、学習指導要領移行期の今

は、スूपと一緒に柱を持って歩

くよう努力しています。前述のよ

うにまだイメージが定まっていま

せんが、造形的な見方・考え方を働

かせながら焦らず形づくっていこ

うと思います。



東京都練馬区立  
南町小学校 教諭  
佐藤 匠  
(さとう たくみ)

# 多文化理解から広がる 子どもの見方、感じ方

筆者は2017年4月からタイのバンコク日本人学校中学部に赴任している。さまざまな国から帰国してきた子どもたちと日本で接する中で、「子どもたちが海外に暮らしている時の姿を知りたい」という思いが湧いてきたことがきっかけである。実際にバンコクに住んでみると、子どもたちの興味・関心等からタイの地域性を感じることがある。本稿ではその一端を紹介し、地域との関わりから育まれる感性や創造

性への理解を深めることで、「学びに向かう力、人間性等」や「思考力、判断力、表現力等」の育成について考えていきたい。

中学校学習指導要領解説美術編によると、「感性はその時代、国や地域などに見られる美意識や価値観、文化などの影響を受けながら育成される」とある。タイでは国民の95%が仏教徒であると言われている。そうした背景から、タイの人々の信仰を反映した建築様式や装飾文化、仏像などが身近に見られるため、寺院や宮殿等を訪れたり、伝統的な祭りに参加したりした経験のある生徒は多い。

コムローイのランタン(生徒作品)

一方、日本を離れることで改めて日本のよ

さに気づいたり、日本とのつながりが大切なものを感じられたりすることもある。昨年2017年には、日タイ修好130周年を記念して、東京国立博物館と九州国立博物館でタイの仏教美術を紹介する「タイく仏の国の輝き」展が開催された。そして今度はバンコクで、今年2月中旬まで、縄文から江戸までの日本美術を総合的に紹介する「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」展が開催された。現地では何人もの生徒が足を運んだ。

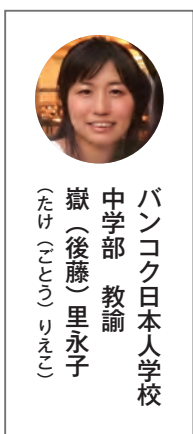
筆者は、このような生活経験が生徒の見方や感じ方を広げ、主題を生み出す力にもつながっていると感じている。例えば、水墨画の授業では、墨の技法を生かして、南国フルーツをみずみずしく描い

た作品や、コムローイ祭(伝統的な仏教の祭り)のランタンが夜空に放たれていく様子を描いた作品などが見られた。

筆者自身、現地の美術文化についてまだ理解の途中ではあるが、折に触れてアジアの文化やアジアから見た日本のよさという視点を投げかけるようにしていきたい。そして、子どもたちが自己の生活と結びつけて学習し、美術文化に対する見方や感じ方を深めながら思考・判断・表現したり、感性豊かに創造したりできるように心がけたい。

筆者は、このような生活経験が生徒の見方や感じ方を広げ、主題を生み出す力にもつながっていると感じている。例えば、水墨画の授業では、墨の技法を生かして、南国フルーツをみずみずしく描い

「日本美術のあゆみ―信仰とくらしの造形―」を見た生徒のレポート



# アプリで見よう、つくろう

筑波大学附属小学校 教諭 北川智久 (きたがわ ともひさ)



私が図工の授業で「気軽にICT活用」している方法をいくつか紹介します。

「鳥獣人物戯画」は、京都の高山寺に伝わる国宝の紙本墨画の絵巻物です。当時の世相を反映して動物や人物を戯画的に描いたものとして有名です。特に有名なのが、ウサギ・カエル・サルなどが擬人化して描かれている甲巻です。これらを、パソコンやタブレットを使って鑑賞したり、オリジナルの場面を表したりしてみましょう。

## 1 「鳥獣戯画 iPhone 版」で鑑賞する

「鳥獣戯画 iPhone 版」は iPhone や iPad で使える無料アプリです。このアプリを使って鑑賞活動を行います。長い絵巻物をスクロール再生したり部分拡大したりすることもできます。見ることができるのは甲巻と乙巻です。私は、授業ではスクリーンに投影して全体鑑賞に使用します。場面ごとのお話を子どもと想像しながら、作品に親しみます。純粋にウサギやカエルたちのお話をつくることに徹してもよいでしょうし、高学年ならば歴史的な知識を与えるのもよいでしょう。

## 2 「鳥獣戯画制作キット」でつくる

オリジナルの鳥獣人物戯画をつくる活動を行います。グループに1台か、2人に1台程度のパソコンやタブレットを使うとよいでしょう。インターネットで <https://gigamaker.jimdo.com> にアクセスして、「鳥獣戯画制作キット」という無料のページを開くと、beta版が利用できます。

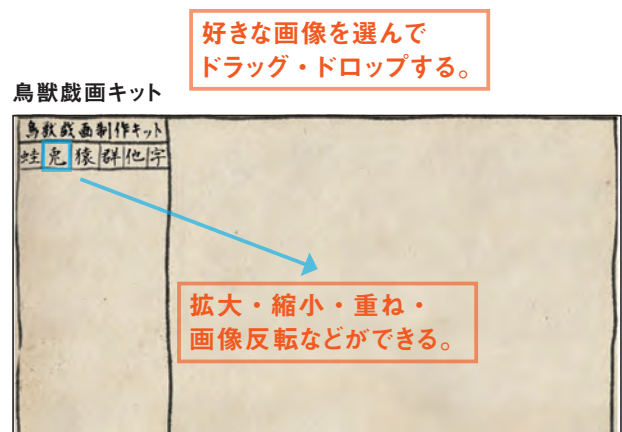
まず、ページを開くと「蛙」「猿」「兎」など鳥獣人物戯画に出てくるキャラクターが項目ごとに分かれて表示されます。クリックすると、いろいろなキャラクター画像が表示されます。画像をドラッグ、ドロップして画面の好きなところに配置します。

このような手順で、お話を考えながら好きな鳥獣

人物戯画の画像を配置してオリジナルの鳥獣人物戯画をつくれます。

例えば、私は子どもたちに「学校あるある」などのお題を与えました。みなさんだったら、どのようなお題を与えるでしょうか。文字を使えるのですが、本来の鳥獣人物戯画にならって絵だけで表した方が想像がふくらみます。Wi-fiにつなぐ必要があるので、接続可能台数を確認しておきましょう。つくった作品を残すには、スクリーンショットを撮ります。

また、iPhone・Android などスマホ・タブレット端末用の無料アプリでも「鳥獣戯画制作キット」が出ています。アプリをダウンロードすればその後通信する必要がないので便利です。作品画面の保存もワンタッチでできるので簡単です。インターネット上のものとは若干異なりますので、お好みの方をお使いください。



※作家作品には著作権などの作品を保護するための権利があります。インターネット上でみだりに公開するなど、権利の侵害をしないように気をつけましょう。

# ちかごろ気になる...



## 新参者

愛知県刈谷市立富士松北小学校  
小田 淳也 (おだ じゅんや)

3年前の春、教師としてデビューした。2年間の講師経験を経て、昨年の春から新任として5年生の担任をしている。算数や理科などでは、間違えたときには「違うよ」と言わないといけない。しかし、図工には答えがない。子どもたちが一生懸命考えて製作したものを肯定的に受け止め、認めることができる。それが図工という教科のすてきなところだと思う。そこで、私が指導するときに気をつけていることを二つ紹介する。

### ①ほめて伸ばすこと

私自身、幼少のころから絵を描くことが好きで、「すごいね」、「上手だね」と言われるのが嬉しくて、得意になって友達や担任の先生に自分が描いた絵を見せていたことを覚えている。そこで、製作中の子どもや完成した作品に対して、「よくこんなに細かいところまで塗ったね」、「やすり名人！ 丁寧に削ったから角がつるつるだね」など、できるだけオーバーに、みんなに聞こえるようにほめるこ

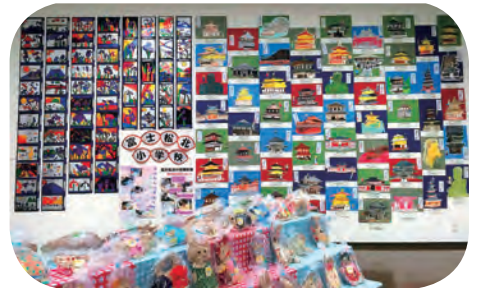
とにしている。

### ②子どものつまずきに気づくこと

それぞれのつまずきには必ず原因があるはず。どうして描けないのか、その原因を子どもとの対話や様子から探ることを心がけている。「新しい紙をあげるからもう一度描いてみようか?」、「描き方がわからなくて困っているの?」などと、それぞれの子どもの気持ちをくみ取って声をかけている。

たくさん悩み、苦勞してつくった作品が完成したとき、子どもたちは「先生できたよ!」と言ってピカピカの笑顔を見せる。その顔を見るたびに、教師になって図工を教えていてよかったと思う。真剣に絵を描いたり、ものをつくったり、友

達の作品を鑑賞してよさを認め合ったりすることを通して、豊かな人間性を育てていきたい。



## 問題解決を楽しむ

札幌大谷中学・高等学校  
原 祐輔 (はら ゆうすけ)

美術にかかわる仕事をされている方は、「大変なこともあるけど、やっぱり楽しいな」と感じていることが多いと思います。私も美術教員として、そのように感じています。本稿の「ちかごろ気になる」というテーマで何か書こうとしたときも、今も昔もやっぱり美術が気になるよ、という気持ちがまず出てきます。私は授業や教材研究、専門領域の勉強や自分の制作も、やはり楽しいと感じます。なぜ楽しく思うのか。それは創造的に問題解決することを楽しいと感じるのが、理由のひとつです。

創造的問題解決の能力は、関連する多くの書籍が出ているように企業の業績アップや効率化などでも話題となる重要なスキルです。能力とカスキルという堅苦しい雰囲気ですが、その能力を発揮するときは苦しいというよりも楽しいと感じます。私自身このスキルを活用した経験として、次のような例があります。

- ・ボックスアートを制作する際に目を引く仕掛けとして、七宝焼きを埋め込んだ。

- ・氷のピラミッドをつくる時、三角関数を利用して型枠をつくった。
- ・海外で制作された量産品を分析し、制作に使われた工具や刃物の規格が日本と違うことを発見した。
- ・衝撃と水濡れに強く、中に光ファイバーを通す盤面が必要で、樹脂と金属で作成した。
- ・焼失したパターン模様を残っている部分から復元した。

このように、私がかかわった美術の仕事は、すべて複合的な知識と技術を使って問題をクリアする楽しいミッションでした。これらは、

- ①何をクリアすればよいのか、原因や問題を明確にすること。
- ②多くの素材の特性と、美術分野以外の知識を組み合わせる策を練ること。
- ③実際につくることができる。

といった三つの要素から成り立っていると思います。

私は普段の学校の活動で、この三つの能力を子どもたちが獲得できるように意識して取り組んでいます。そして、毎日一緒に創造的問題解決を楽しんでいます。



# 岡山県立 美術館

郷土に親しみ美を慈しむ

岡山県立美術館は、天神山地区文化施設整備基本構想のもと、へ創る、学ぶ、集う、守る、繋ぐ、広場として、そして、地域の芸術文化の発展に貢献していく「県民とともに創る美術館」として、1988年3月に開館しました。郷土にゆかりあるすぐれた美術作品を収集・展示するとともに、内外の芸術活動を紹介する展覧会や地域と連携した多彩な教育普及事業を開催し、今年3月で30周年を迎えます。

当館は、「重厚で威厳のある外観と、開放的で連続性のある内部空間の共存」を特徴とする建築家・岡田新一おくだ しんいち氏の設計です。建築素材には、岡山で多く産出した万成石まんながしの他、ガラス、ステンレスを使用し、外壁や中庭の壁には、ラスタータイルが使用され、独特の質感と形態を構成しています。

建物は、狭小な敷地面積を有効活用するよう工夫され、二つの展示





屋内広場



屋外広場



コレクション展示室



岡山県立美術館

〒700-0814  
岡山県岡山市北区天神町 8-48  
Tel:086-225-4800

開館時間：9:00～17:00  
(入場は閉館の30分前まで)

休館日：月曜日  
(休日の場合はその翌日)  
年末年始  
(12月28日～1月4日)  
展示替え期間中

※現在、施設等のメンテナンス改修のため、  
2018年4月19日まで休館しております。

室、ホール、講義室、研修室、そして、くつろぎと語らいの場としての喫茶、アートショップなどを配置しています。

地下1階展示室では、年間5本程度の特別展を開催し、2階展示室では、「岡山の美術」をメインテーマとしてコレクション展を開催しています。また、屋内広場や屋外広場、エントランス正面の石畳スペースは、展示やワークショップスペースとして建物とひとが共存する開放的な空間を創出しています。

さらに、岡山カルチャーゾーン連絡協議会、岡山県博物館協議会等の一員として、地域の博物館施設と連携しながら芸術文化の発展に貢献するよう努めています。

# 岡山ゆかり



雪舟等楊「山水図（傲玉澗）」  
室町時代（15世紀）（紙本墨画）〔重要文化財〕



原田直次郎「風景」 1886年（油彩・カンバス）

当館のコレクションは、「岡山ゆかり」をキーワードにしています。岡山は、古代吉備の国に代表されるように古くから文化が栄えてきました。絵画の面においても、多くの作家を輩出していますが、特に中世から近世にかけての日本画、近代以降の日本画及び洋画界には、我が国を代表する作家も少なくありません。

室町水墨画を大成した雪舟以降、宮本武蔵、浦上玉堂、松岡寿、原撫松、原田直次郎、平櫛田中、坂田一男、国吉康雄、小野竹喬、池田遙邨、金重陶陽らのすぐれた芸術家を現代に至るまで輩出しています。したがって、時代的には、中世以降現代に至るまでの作品を対象とすることに、岡山の美術の流れを広く一般に紹介し、県民文化の向上に寄与することを収集方針としています。



金重陶陽「備前三角播座花入」  
1953-54年（備前土）

そして、彼らの卓越した業績を紹介するため「岡山の美術」をメインテーマにしたコレクション展を、年間9本程度開催しています。さらに、岡山の美術についての理解がより深まるよう、特別企画や、テーマ展、特集展示なども開催しています。

## もの・ひと・こと

『美術館に行ったのは、1年ぶりでした。その時はルノワールの展示でしたが、感動が得られずただ作品の前を通り過ぎるだけでした。今回、対話を用いた鑑賞を

特に近年では、知られざる岡山の作家紹介「岡山の作家☆再発見シリーズ」展や次代を担う美術家育成「I氏賞」展など、多彩な切り口で展示会を開催しています。

さらに、国内外のすぐれた美術作品を紹介する特別展では、当館のコレクションをメインにした特別展を企画したり、特別展にあわせて岡山ゆかりの関連企画展示を積極的に行ったり、岡山の美術が世界と繋がりながら、また世界へ影響を与えながら生まれていることを紹介することも大切に行っています。

しながら、友達の意見を聞くと、作品に対する自分の考え方が変わって、いろいろな角度から作品をみることができ面白かったです。（1略）40分という時間が、美術館で



中学生の美術館学習

短く感じられたのは初めてでした。私は美術館であまり感動したことがなかったけれど、この感覚で作品をみれば、いろいろな感動を味わえるようになると思います。すごくよい時間でした。』

これは、学校団体観覧で来館した中学生の言葉です。当館では、多くのボランティアに協力を得て、作品そのものと児童や生徒がじっくり向き合うという鑑賞プログラム（対話を用いた鑑賞）を実施しています。



盲学校の美術館学習

このような鑑賞プログラムをはじめとする当館の教育普及活動は、「もの」と「ひと」の間におこる「こと」に着目して多彩な事業を行っています。平成21年度から本格実施されるようになった学校と美術館の連携事業（博学連携事業）もその中の一つです。

コレクションを活かした「アート・トラベリング・トランク」「カルチャーゾーン+県美アート・カード100」をはじめとする美術館教



小学校への出前授業

育素材の制作、学校団体観覧プログラムや出前授業の実施、また、教員研修会や研修会とタイアップした児童夏休み鑑賞教室、博学連携シンポジウムの開催など事業内容も多様化してきています。

さらに、近年では、高校生・大学生の視点からの美術館教育素材の制作や、美術館教育プログラムの提案、実施も始まっています。

また、平成23年度から始まった盲学校の美術館鑑賞学習は、美術館でタブーとされてきた「触る」という



アートカードを使って

視点からの鑑賞活動や展示活動へ発展しています。障害者対応としてではなく、ユニバーサル・ミュージアムの視点から美術館活動を考えられるようになったことは、特筆すべきことだと考えています。

ますます多彩に展開される教育普及事業を実施していく中で、「本物が持つ力に触発されるという博物館の原点」に、常に立ち返りながら事業を実施することを心がけていきたいと思っています。

（文・写真提供 岡山県立美術館）

教材研究  
〔小学校〕

# アイデアコミコミ S! モビール

■ たけだ わたる 武田 渉 東京学芸大学附属世田谷小学校

6  
年生

工作

8  
時間



## 題材のねらい

ゆらゆらと揺れる動きから発想し、物理的なつり合いを確かめながら、形や色を工夫して自分らしく表現する。

## 用具・材料

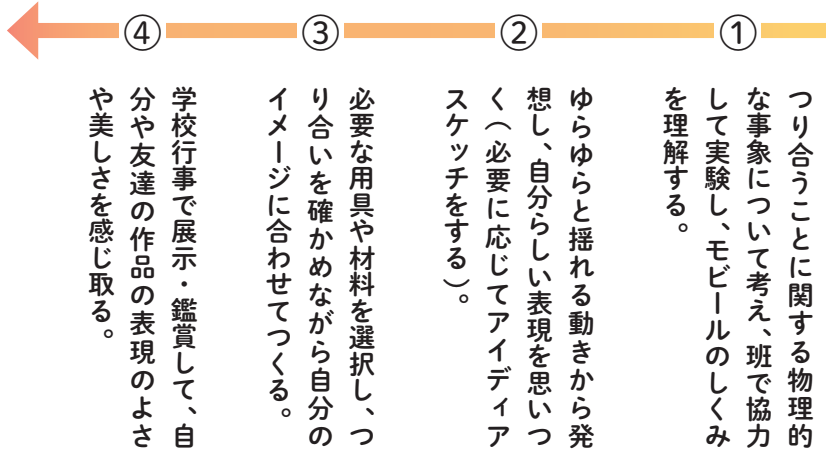
木の枝、紙粘土、糸・毛糸、紙コップ、折り紙、色板目紙、針金、板材、段ボール、はさみ、カッターナイフ、電動糸のこぎり、のり、木工用接着剤、粘着テープ、はとめパンチ、ラジオペンチ

## 評価の観点

- 関** モビールに表すことに関心をもち、モビールをつくる活動を楽しむ。
- 発** ゆらゆらと揺れる動きから豊かに発想し、自分らしい表現を思いつく。
- 創** 既習の経験をもとに必要な用具や材料を選択し、つり合いを確かめながら工夫してつくる。
- 鑑** 展示された作品を見て、自分の作品や友達の作品の表現のよさや美しさを感じ取る。



## 学習の流れ



**本** 題材は、理科的なアプローチからの造形活動を考え、実施した活動です。

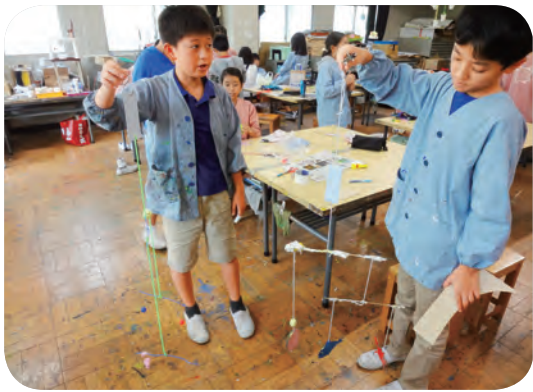
導入は、物理的な事象をクイズ形式で答えさせることから始めました。図を見せて、「この条件の場合、右と左のどちらが下がるでしょう。」という内容です。これは、答えを出すことが目的ではなく、「つり合うとはどういうことかを考え、「試してみよう」という気持ち

に誘導するものです。

子どもたちは次第に、糸の長さや重さ、また、横棒の長さによっても答えが変わってくることを指摘し始めました。そこで、材料を渡し、班ごとに実験させました。30分ほどで教室内にはさまざまな大きさ・デザインの模型ができてきました。実験後の子どもたちの発言を聞くと、使う糸の長さは大きく影響しないことや、つり合わせるためには重心の位置をよく確かめることなどが体感的に理解できたようでした。

題材名の「アイディアコミコミ S! モビル」の「S!」は「世田谷小」の「S!」です。附属世田谷小の子どもたちが自分らしく表現できるようにという願いを込めました。

次の週、子どもたちは家から木の枝や紙粘土を持って来たり、好きな模様を印刷して用意し



たりしていました。活動開始から1時間ほどで、あちらこちら「つり合った!」という声が聞こえてきました。導入の余韻もあり、つり合うことが子ども

たちにとって嬉しいようでした。左右でつり合わずに困っている子どもには、前時の授業を思い出させて、重心が鍵になっていることを伝えました。つるしているものの重さが左右で違っていても、糸を結ぶ位置を数ミリ、もしくは数センチ調整するだけで、つり合いは取れるのです。

次第に「つり合った!」の声は増えていき、左右のつり合いがとれた子どもたちの顔は満足気でした。糸を結んでは指でつまみ上げて、つり合いを確かめる様子も微笑ましく思いました。



教材研究  
[中学校]

ぐみょうじ  
弘明寺商店街  
アートプロジェクト

いいだ てつあき  
■ 飯田 哲昭

横浜国立大学教育学部附属  
横浜中学校

3  
年生

デザイン

10  
時間



題材のねらい

造形的な視点で日々の生活を眺めることが、新しい切り口を生み出したり、心豊かな生活を形成したりすることにつながることを理解する。

用具・材料

粘土、画用紙、ケント紙、粘土板、粘土べら、はさみ、カッターナイフ、カッターマット、絵の具、デジタルカメラなど

評価の観点

- 関** 生活環境やこれからの社会の課題と美術の関わりに興味をもち、主体的に創造活動に取り組む。
- 発** 生活環境や社会との関わりなどから主題を生み出し、表現の構想を練る。
- 創** 主題を具現化するために、自分の表現方法を追求して創造的に表す。
- 鑑** 生活環境や社会の中にある美術の働きについての見方や感じ方を深める。



### 【はじめに】

次期学習指導要領解説美術編には次のような一文がある。「どれだけ多くのよさや美しさが自分の身近な生活の中にあつたとしても、造形的な視点がなければ気付かずに通り過ぎてしまう。」生徒たちは生活圏に点在している彫刻やアート作品を日常的に目にしているはずだが、その存在や価値に気づいていないことが多い。そこで本題材では、生活を美しく豊かにする造形や美術の働きを、アートプロジェクトを仕掛

## 学習の流れ

- ① 地域のよさや抱えている課題を把握する。
- ② 課題に迫る見方・考え方を深めるために必要な知識を学ぶ。
- ③ グループでプロジェクト会議を行う。
- ④ アイデアスケッチを描くなど、個人で構想を練る。
- ⑤ 主題に合う材料を選びながら、模型を制作する。
- ⑥ 模型を実際に置いた様子をカメラで撮って確認し、話し合う。
- ⑦ 完成した模型と設置したい場所の画像とを合成する。
- ⑧ 互いに提案し、作品を鑑賞し合う。

ける側になって探究することで、身の回りの形や色彩などの働きに気づいたり、よさや美しさなどを感じ取ったりする力を育むことをねらいとした。

### 【授業の実際】

地域のよさや抱えている課題を把握するため、地域の商店街をセントラルイメージとしたマインドマップの作成を夏期休暇中の課題とした。

次に、探究課題に迫る見方・考え方を深めるために、リチャード・セラの彫刻「傾いた弧」の是非を問いながら、「パブリックスペースにアートは必要なのか」を考えた。その過程で生徒から、アートプロジェクトを企画する上での重要な視点として、「そこに住む人々に有益なものであるか」、「制作費・維持費についての地域の理解」、「新たなコミュニティ形成を担う」などの意見が出された。

その後、具体的に地域の商店街を活性化させるためのプロジェクト会議を開いた。ここでは、「商店街の歴史との調和」、「住民主体の取り組み」、「体験によって人と人をつなぐもの」、「時間が経っても薄れないベンチなどの機能があるもの」、「街のシンボルとなるオブジェ」など、これまでの学びを生かした意見や、「若者を呼び込むためにインスタ映えするもの」といった、今を生きる中学生ならではの感性を働かせた話し合いがなされた。

### 【おわりに】

次期学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」を生み出すためには、日常生活やこれからの社会に対する課題をどのように学びの文脈に取り入れるかが題材構想の肝となる。本題材では、生徒たちがアートプロジェクトを企画・提案する側に立つことで、課題を自分のこととして捉えながら創造活動に取り組む姿が見られた。こうした学びを積み重ねることで、造形的な視点で世の中を眺め、思いを巡らせ、何気ない日常に価値を見出すことができる豊かな心が育まれるのだと考える。



光のオブジェ



6年生の作品です。プラスチックのカップやペットボトルに色水を入れ、光がきれいに透過して見えるようにさまざまに工夫されていました。

# Pick Up Exhibition

展覧会レポート

東京都台東区立大正小学校

スケルトン城



今回の展覧会の目玉です。体育館に入った瞬間まず目に飛び込んでくる大きいお城です。城の壁は透明のビニル地で、大正小の児童が隣の幼稚園の子どもたちと一緒に絵の具遊びをしてお城に組み立てられています。



2年生の作品が可愛らしく展示されていました。大正小の図工専科の安倍先生にお聞きしたところ、作品たちのおうちは、フラフープと竹製のざるを組み合わせてつくられているとのこと。図工のアイデアが光ります。



**開隆堂出版株式会社**

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 ☎ 011-231-0403  
東北支社 〒983-0852 仙台市宮城野区福岡4-3-10 仙台TBビル4階 ☎ 022-742-1213  
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市中区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 ☎ 052-789-1741  
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎ 06-6531-5782  
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2丁目1番5号 FYCビル3階 ☎ 092-733-0174